



CESS<sup>1</sup>(Committee for Expertise of Shipbuilding Specifics=造船関係専門委員会)は、2011年9月1日に韓国・慶州市にて年次総会を開催した。日本、欧州、中国、韓国、米国の JECKU メンバーが参加し、世界の造船業を取り巻く諸問題について議論を交わした。

年次総会では、過去1年間の CESS 活動のレビューと今後1年間の活動計画、並びに重要課題に対し造船業界の共通意見を発信するため、どのようにして各極間の協力を深めていくかを話し合った。

また、海事関連業界間で直面する種々の重要課題について、双方にとって現実的な解決策を見出すため相互認識を共有する重要性が訴えられた。

現在進行中の課題である GHG 排出削減問題に関しては、CESS メンバーは現実的かつ効果的な解決策が求められるエネルギー効率設計指標 (EEDI) への共通理解を図るべく、関連業界との数多くの会合に出席した結果、IMO の第62回海洋環境保護委員会 (MEPC62) において、新造船の EEDI コンセプトが採用された。当年次総会では、造船業界が EEDI 策定で重要な役割を担い、円滑に EEDI 策定を進めるためには、船主との密な連携が不可欠であるという認識を共有した。

この他、環境に関する課題、GBS の共通構造規則のほか、現在海運業に大きな影響を与えている海賊問題についても議論された。

2010年のパリ MOU 及び東京 MOU のポートステートコントロール (PSC) の活動報告が行われ、両地域における PSC 活動はこれまで同様、着実に成果を上げていることが報告された。また同報告では、造船に起因する船舶の欠陥件数が減少し続けていることが示された。しかしながら造船業界として、今後も適切な修繕、メンテナンスの重要性を継続して訴えていく。パリ MOU の活動報告では、東京 MOU と異なり、欠陥と停

---

<sup>1</sup> 旧称サブスタンダード船排除委員会 (Committee for Elimination of Substandard Ships)。2005年の中国・杭州で開催された JECKU TEM (造船首脳会議)以降、新名称に変更し、機能を拡大して活動を開始。

**CESS 2011**  
**Press Release**

船件数が減少したこと報告されたが、欧州においては修理事業活動が大幅に減っているという観測があり、今後しばらくは回復待ちとなっている海運市況下においてこの先数年間船舶が適切なタイミングで修理やメンテナンスがされるのかについて注意深く見守るのが大事ではないかという意見の裏付けとなっている。

CESS メンバーは、造船業界が直面する諸問題が業界にとって好ましい方向に効果的な解決が図れるよう CESS 活動のより一層の活性化が必要であると認識し、活動を継続して行っていくことに合意した。今次総会の結果は、2011年10月26～29日に韓国・済州島で開催される JECKU TEM (造船首脳会議) で報告される。

CESS 造船関係専門委員会  
委員長 岩本 洋 (Dave Iwamoto)

(気付) 社団法人日本造船工業会  
(〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-2-2)  
suzuki@sajn.or.jp